

平成 28 年度

第 2 回青少年意見募集事業結果

テーマ

これからの教育・学びのあり方について

(提案元: 文部科学省)

意見受付期間

平成 28 年 9 月 16 日(金) ~ 10 月 2 日(日)

平成 28 年 10 月

主に自由回答形式の質問に対する回答を、回答の要点ごとに分析して集計し、分類ごとに主な意見を掲載している。意見の掲載に当たっては、必要に応じ、要約している。

第 2 回 これからの教育・学びのあり方について(文部科学省)

1. 設問

質問1 (これまであなたが受けてきた教育を振り返ってお答えください)現在の学校での学習や生活、地域・家庭での学習、これまでに受けてきた教育を考えたとき、最も印象深いもの、または、受けて良かったと思うものを以下から選択してください。

質問2 (今の教育現場の問題について、あなたやあなたの友人のことを思い浮かべながらお答えください。)現在、授業についていけない、学校に通えない(不登校)、受験料や授業料、下宿代が払えないために進学できないなど、様々な理由から自分の希望する教育が受けられない子供・若者がいます。それぞれの問題を解決するためには、どのようなサポートや仕組みが必要だと思いますか。

質問3 (将来を見据えて、自分が身につけたい・伸ばしたい能力についてお答えください。)2030 年以降の社会は、今よりも海外とのやりとりが身近になり、人工知能やロボットに関する技術が発展するなど大きな変化が起こるとされています。そのような中で、あなたが将来を考えたとき、どのような力を身につけておきたいですか。また、そのためにはどのようなサポートがあったらよいと思いますか。

質問4 誰もがそれぞれの能力を伸ばし、夢と希望を持って様々な分野で活躍できるようにするためには、教育を更に充実させていくことが必要です。そのために国が教育への支出を増やすことについて、若者を含めた国民に理解をしてもらうには、どのようにしたらよいと思いますか。

平成 28 年度 第 2 回青少年意見募集事業結果

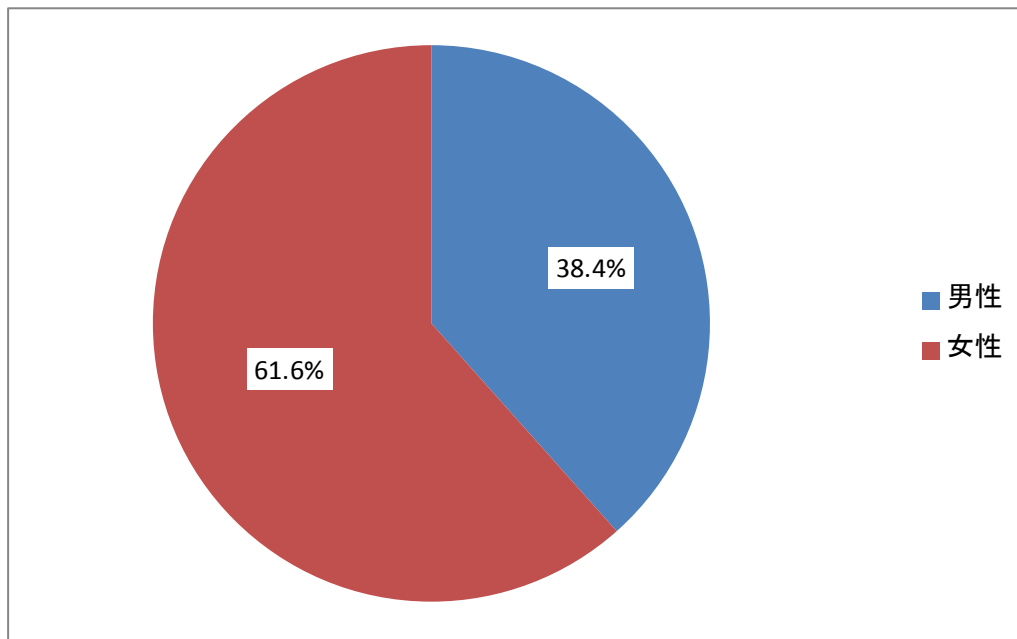
2. 意見受付期間

9月16日(金)～10月2日(日)

3. 回答者数・回答属性

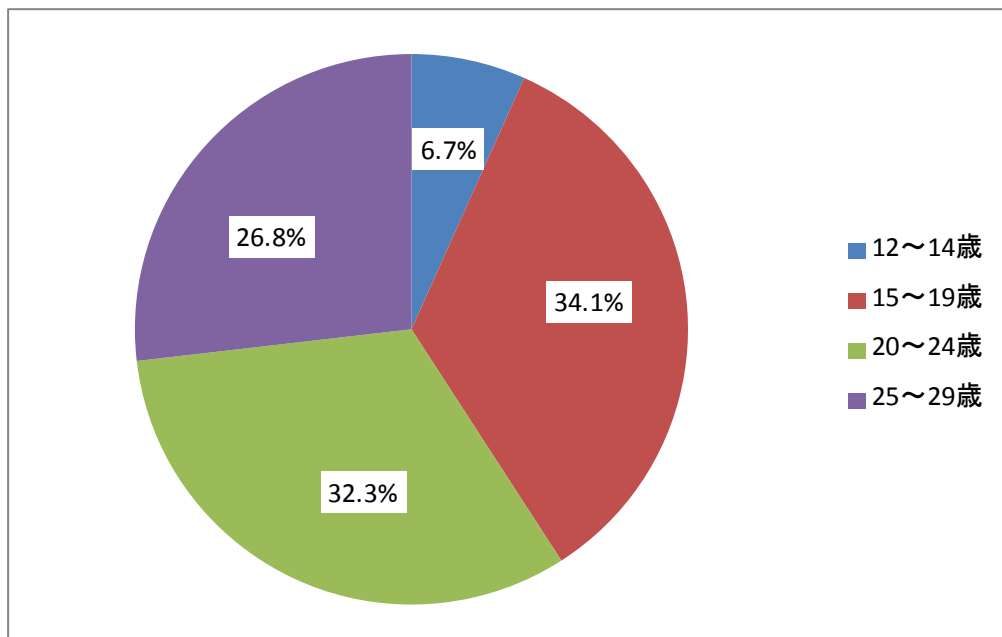
【回答者数】 男性:63名、女性:101名、合計:164名(回答率59.4%)

【性別】 男性が38.4%、女性が61.6%であった。

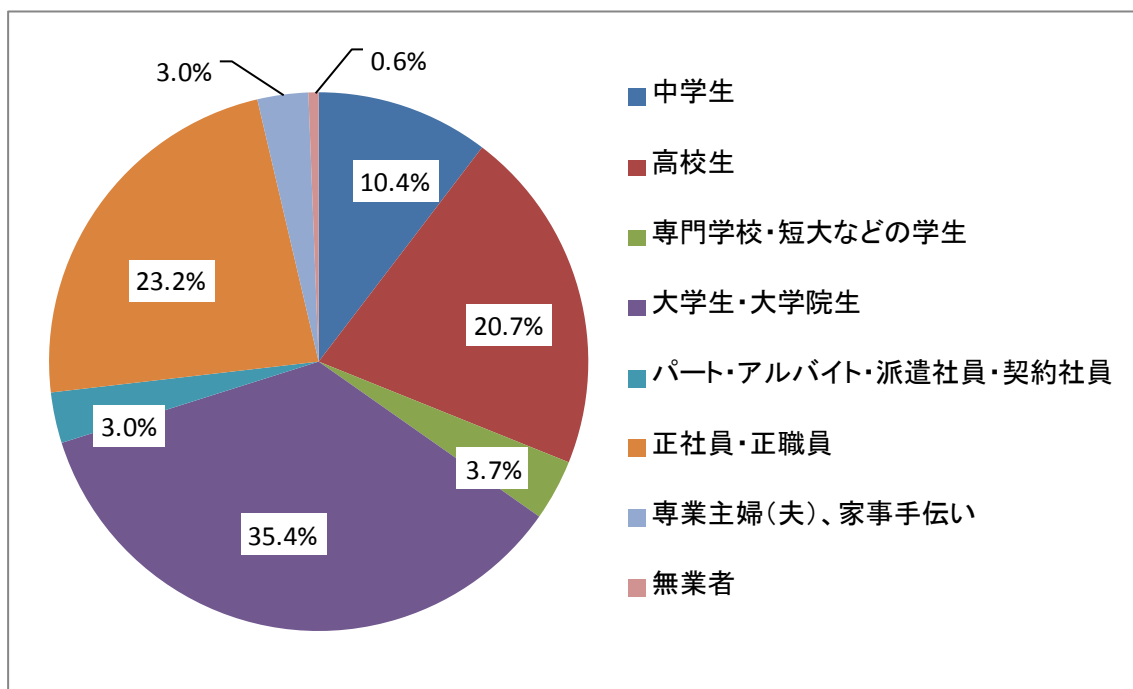


平成 28 年度 第 2 回青少年意見募集事業結果

【年齢】 12～14 歳が 6.7%、15～19 歳が 34.1%、20～24 歳が 32.3%、25～29 歳が 26.8%であった。



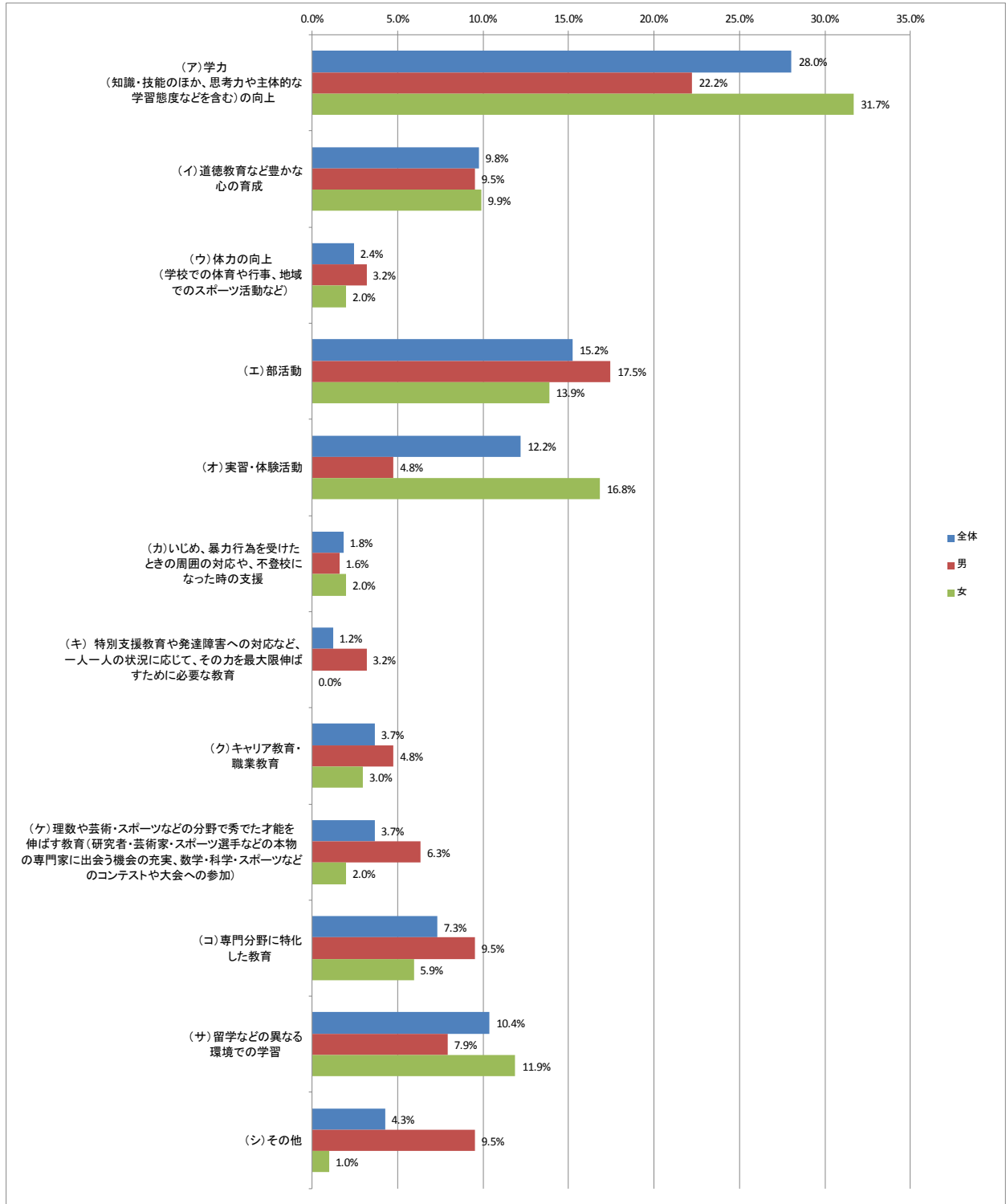
【職業】 中学生が 10.4%、高校生が 20.7%、専門学校・短大などの学生が 3.7%、大学生・大学院生が 35.4%、パート・アルバイト・派遣社員・契約社員が 3.0%、正社員・正職員が 23.2%、専業主婦(夫)・家事手伝いが 3.0%、無業者が 0.6%であった。



平成 28 年度 第 2 回青少年意見募集事業結果

4. 集計結果

質問1 (これまであなたが受けてきた教育を振り返ってお答えください)現在の学校での学習や生活、地域・家庭での学習、これまでに受けてきた教育を考えたとき、最も印象深いもの、または、受けて良かったと思うものを以下から選択してください。



平成 28 年度 第 2 回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段: %		全 体	(ア)学力(知識・技能のほか、 思考力や主体的な学習態度など 含む)の向上	(イ)道徳教育など豊かな 心の育成	(ウ)体力の向上 (学校での体育や行事、地域での スポーツ活動など)	(エ)部活動	(オ)実習・体験活動	(カ)いじめ、暴力行為を受けた ときの周囲の対応や、 不登校になった時の支援
性別	全体	164 100.0	46 28.0	16 9.8	4 2.4	25 15.2	20 12.2	3 1.8
	男	63 100.0	14 22.2	6 9.5	2 3.2	11 17.5	3 4.8	1 1.6
	女	101 100.0	32 31.7	10 9.9	2 2.0	14 13.9	17 16.8	2 2.0
年代	12～14歳	11 100.0	2 18.2	3 27.3	-	2 18.2	3 27.3	-
	15～19歳	56 100.0	12 21.4	7 12.5	1 1.8	11 19.6	9 16.1	2 3.6
	20～24歳	53 100.0	16 30.2	2 3.8	3 5.7	8 15.1	5 9.4	1 1.9
	25～29歳	44 100.0	16 36.4	4 9.1	-	4 9.1	3 6.8	-
性別× 年齢	男性 12～14歳	4 100.0	-	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	-
	男性 15～19歳	15 100.0	1 6.7	3 20.0	-	4 26.7	1 6.7	1 6.7
	男性 20～24歳	23 100.0	5 21.7	1 4.3	2 8.7	4 17.4	-	-
	男性 25～29歳	21 100.0	8 38.1	1 4.8	-	2 9.5	1 4.8	-
	女性 12～14歳	7 100.0	2 28.6	2 28.6	-	1 14.3	2 28.6	-
	女性 15～19歳	41 100.0	11 26.8	4 9.8	1 2.4	7 17.1	8 19.5	1 2.4
	女性 20～24歳	30 100.0	11 36.7	1 3.3	1 3.3	4 13.3	5 16.7	1 3.3
	女性 25～29歳	23 100.0	8 34.8	3 13.0	-	2 8.7	2 8.7	-
属 性 別	中学生	17 100.0	4 23.5	3 17.6	-	5 29.4	3 17.6	-
	高校生	34 100.0	7 20.6	4 11.8	1 2.9	5 14.7	5 14.7	2 5.9
	専門学校・短大などの学生	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	-	2 33.3	-
	大学生・大学院生	58 100.0	17 29.3	4 6.9	3 5.2	11 19.0	6 10.3	-
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	5 100.0	3 60.0	-	-	-	-	-
	正社員・正職員	38 100.0	13 34.2	1 2.6	-	3 7.9	4 10.5	1 2.6
	専業主婦(夫)・家事手伝い	5 100.0	1 20.0	3 60.0	-	-	-	-
	無業者	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-

平成 28 年度 第 2 回青少年意見募集事業結果

上段：人数 下段：%		(キ) 特別支援教育や発達障害への対応など、一人一人の状況に 応じて、その力を最大限伸ばすた めに必要な教育	(ク) キャリア教育・ 職業教育	(ケ) 理数や芸術・スポーツなど の分野で秀でた 才能を伸ばす教育	(コ) 専門分野に 特化した教育	(サ) 留学などの異なる環境での 学習	(シ) その他
性別	全体	2 1.2	6 3.7	6 3.7	12 7.3	17 10.4	7 4.3
	男	2 3.2	3 4.8	4 6.3	6 9.5	5 7.9	6 9.5
	女	- -	3 3.0	2 2.0	6 5.9	12 11.9	1 1.0
年代	12～14歳	- -	1 9.1	- -	- -	- -	- -
	15～19歳	1 1.8	3 5.4	3 5.4	4 7.1	3 5.4	- -
	20～24歳	1 1.9	2 3.8	2 3.8	5 9.4	6 11.3	2 3.8
	25～29歳	- -	- -	1 2.3	3 6.8	8 18.2	5 11.4
性別× 年齢	男性 12～14歳	- -	1 25.0	- -	- -	- -	- -
	男性 15～19歳	1 6.7	1 6.7	2 13.3	1 6.7	- -	- -
	男性 20～24歳	1 4.3	1 4.3	1 4.3	3 13.0	3 13.0	2 8.7
	男性 25～29歳	- -	- -	1 4.8	2 9.5	2 9.5	4 19.0
	女性 12～14歳	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	女性 15～19歳	- -	2 4.9	1 2.4	3 7.3	3 7.3	- -
	女性 20～24歳	- -	1 3.3	1 3.3	2 6.7	3 10.0	- -
	女性 25～29歳	- -	- -	- -	1 4.3	6 26.1	1 4.3
属 性別	中学生	- -	1 5.9	1 5.9	- -	- -	- -
	高校生	1 2.9	3 8.8	1 2.9	3 8.8	2 5.9	- -
	専門学校・短大などの学生	- -	- -	- -	1 16.7	- -	1 16.7
	大学生・大学院生	1 1.7	2 3.4	2 3.4	4 6.9	7 12.1	1 1.7
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	- -	- -	- -	- -	- -	2 40.0
	正社員・正職員	- -	- -	1 2.6	4 10.5	8 21.1	3 7.9
	専業主婦(夫)・家事手伝い	- -	- -	1 20.0	- -	- -	- -
	無業者	- -	- -	- -	- -	- -	- -

- 全体で見ると「(ア)学力(知識・技能のほか、思考力や主体的な学習態度などを含む)の向上」が 28.0%と最も多く、次いで「(エ)部活動」が 15.2%、「(オ)実習・体験活動」が 12.2%となった。
- 年代別で見ると 12～14 歳は「(イ)道徳教育など豊かな心の育成」「(オ)実習・体験活動」が 27.3%と同じ回答割合であった。15 歳以上では「(ア)学力(知識・技能のほか、思考力や主体的な学習態度などを含む)の向上」と回答した割合が多い。
- 性別で見ると男女ともに「(ア)学力(知識・技能のほか、思考力や主体的な学習態度などを含む)の向上」と回答した割合が多い。

質問1-1 問1で(シ) その他 を選択した方は入力してください。

その他からの主な意見

- ・義務教育期間（小学校から中学校まで）内で受けてきた教育のことを思い出した時、私の現在の価値観においては、興味を持てる教育はほとんど無かった。言い換えれば、親や学校の先生が何を教えようが、同級生と、どういう関係になろうが、結局自分の人生には自分で責任を持つしかないということを学んだ。大学時代には面白い授業を沢山、受けることが出来て良かった。（男性/26 歳 /パート・アルバイト・派遣社員・契約社員）
- ・学習塾（予備校）での授業や合宿。（学ぶことの楽しさ、勉強が好きでよいことを教えてくれたから。）（男性/26 歳/正社員・正職員）
- ・生徒会活動（男性/29 歳/正社員・正職員）
- ・私が学生時代にやっておいて良かったと思うことは、図書館や本屋に通うことである。教育は基本的に良いことしか教えることができない。しかし、正論や常識や理知だけを説いても無駄なこともある。まったく心に響かなかったり、何一つ問題解決に繋がらなかつたりすることも多い。その点、本ならそれ以外の知識も得ることができる。本当に心に残るものはそういうところにあるような気がする。（男性/28 歳/正社員・正職員）

質問2 (今の教育現場の問題について、あなたやあなたの友人のことを思い浮かべながらお答えください。)
現在、授業についていけない、学校に通えない(不登校)、受験料や授業料、下宿代が払えないために進学できないなど、様々な理由から自分の希望する教育が受けられない子供・若者がいます。それぞれの問題を解決するためには、どのようなサポートや仕組みが必要だと思いますか。

提出された主な意見

■学習環境の多様化

- ・フリースクール導入。(女性/24 歳/正社員・正職員)
- ・数回授業を休んでいただけても授業についていけないことが多く、そのことでますます学校に行きづらくなり登校しないという連鎖があると思う。そのため自宅で授業のフォローができるようなものがあればいいかと思う。例えば家庭教師の派遣やネットを利用した授業、学校に通えない子を集めた昼間の塾なども今後は必要かもしれない。(女性/25 歳/正社員・正職員)
- ・高校から大学のように様々な教科を選択制にすることが必要だと思う。そうすることで今まで希望通りに行かなかった人でも、希望通りの道に進みやすくなる。(男性/18 歳/高校生)

■学校の体制改善

- ・公立の小中学校で、もっと学力を重視した教育をするべきだと思う。生まれつきや家庭環境により、学習能力に差があるのはみんなわかっている。それを前提に、能力別の授業をするなど、塾に通わなくても十分な学力がつけられるように、学校教育を充実させることが大切だと思う。学校は学力を公表することを嫌うが、結局、勉強ができる子、できない子の両方がかわいそうな思いをしていると思う。(女性/21 歳/大学生・大学院生)
- ・まず、学校の教師の人数を増やすことが必要である。学校現場では圧倒的に教師が足りておらず、教師が子供たち一人ひとりにしっかりと対応できていないのではないかと思う。各学級の人数を減らすことで教師が子供を理解し、いじめの防止、サポートをしていくべきだと思う。また、学校だけで子供を育てていくのは限界があるため、学校を地域に開放していくことが重要である。学校、地域、家庭の3つが連携して子供をみていくということを考えていかなければならない。(男性/24 歳/大学生・大学院生)

■ケアシステムの整備

- ・環境支援に関する枠組みが必要だと考えられる。子供若者が教育を十分に受けられない背景に共通することは、その人その人を取り巻く環境が原因となっているということである。これは自身の経験や友人関係、そして学習支援の現場の声を聴くところからそう考えることができる。これらのことから、子供若者の環境面に対して福祉的な援助を行うスクールソーシャルワーカーの設置を推進することはもちろん、相談環境が本人と家族にとってしやすいものか、教育現場による職員や社会資源との地域連携体制は十分であるかについても教育環境として十分であるとの判断基準として定めておく必要があると思われる。(男性/20 歳/大学生・大学院生)

- ・似た境遇にある同世代の人たちが、それぞれ自分なりの問題への取り組み方を話しあえるようなコミュニティの形成。（女性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・専門家のサポート。臨床心理士など専門家が学校に常駐することがいいと思う。（女性/23 歳/正社員・正職員）
- ・様々なサポート体制が存在すると思うが、どこに相談すればよいのかが分かりづらいし、分かったとしても相談しにくい雰囲気がある。学校外だけでも身近なところにワンストップ窓口があれば助かるのではないか。（男性/22 歳/大学生・大学院生）

■経済的支援

- ・足長おじさん制度のさらなる発展展開。あの有名な物語のように、足長おじさんの様な資金提供をしてくれる人と学習したい子供達を引き合わせる、仲介役を国などの公共団体が担ってはどうか。（女性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・無利子型の奨学金の拡充や、理工系人材育成などの教育分野など、民間のニーズがある分野で民間企業による教育への投資を求める。そもそも、教育にかかる予算が全体的に足りないと思う。（男性/18 歳/専門学校・短大などの学生）
- ・義務教育課程を過ぎても教科書代を肩代わりする。文科省が定めた正式に生徒の身になる教育を行っている学校では授業料を無償化または限りなく低くする。（男性/16 歳/高校生）
- ・返済の必要のない奨学金を増やしてほしい。また、教育にかかる国の予算が、北欧諸国などと比較しても少ないので、若い世代へのサポートを増やしてほしい。（女性/28 歳/正社員・正職員）
- ・授業料などは、所得が低い人は、国が負担する制度を作る。（女性/15 歳/中学生）

■現行制度の情報提供

- ・まずは、様々な理由から自分の希望する教育を受けることのできない生徒に対して、必要な情報がくまなく行き渡る制度を確立するべきである。今日では、国や地方自治体、民間団体等をはじめとして多くの機関が教育支援や経済的支援の活動を実施している。しかしながら、それらを必要としているすべての人に情報がしっかりと行き渡っているとは思えない。様々な制度を新たに創設するのも大切なことであると思うが、その前に既存の取り組みを周知することが大切だと考えられる。そのためには、学校現場に多くの情報が寄せられ、それを学校が主体となって生徒・保護者へ伝えていく仕組みづくりを進めるべきだ。（男性/23 歳/大学生・大学院生）

■地域・社会のサポート

- ・ボランティアとか、リタイア後の元気な高齢者の活用。（女性/28 歳/専業主婦（夫）、家事手伝い）
- ・社会人になって周囲から、よく「今の仕事、正直大学で学んだことなんて全然関係ない内容だよ」という声をきく。将来きちんと役に立つ勉強は一体なんなのか？それを理解しないまま高校生活を送り、偏差値や知名度で簡単に大学進学を選んでしまう学生が多く、奨学金や各家庭の財源を無駄にしていると感じる。高校生の時から（小学生、中学生でもいいが）1種類でも多くの職業を体験できる環境を整え、社会人から直接話を聞き、「この仕事に就くにはこんな勉強をするといいよ」という進路を示してもらい機会を設けるべきである。多くの若者はこの経験を就活の時に始めるが、

それでは遅すぎる。大学進学前に、将来の自分の進路を少しでもクリアにできるよう、社会と学生の接点を増やしていく事が必要だと思う。(女性/27 歳/正社員・正職員)

■その他

- ・まず、そのような問題がいま起きている事を当事者ではない人たちにも知ってもらうことが必要。周りの人の理解がないと、問題の根本的なものは解決しないと思う。(女性/18 歳/大学生・大学院生)
- ・自分の希望する教育を受けるためには、自分が努力するしかない。だから、サポートは必要ない。偏差値の高い高校や大学は、全体の 2 割。そこを出ないと生活できないわけではない。8 割の人は、それなりの高校や大学を出て、あるいは、出なくても生活している。(女性/15 歳/中学生)
- ・解決方法を自ら調べ、実行する能力の向上。(サポートや仕組みはもう十分なほどあると思う。)(男性/26 歳/正社員・正職員)
- ・暴行、傷害、中傷によるイジメは犯罪。そういう認識が文科省にも学校にも無いので、イジメにあっている児童生徒は地獄にいる。文科省や学校が、「文科省や学校の範囲の外にある深刻な問題」という認識を持つことが、不登校へのサポートにつながる。(男性/17 歳/高校生)
- ・親の収入の違いで、修学旅行に行けない子供や、制服が買えない子など労働者である親だけでなく、子供にまで収入格差の影響が出ている。私の学校にも、親の収入事情で部活動を続けられなくなり、アルバイトをしている友達や、雨の中の通学でさえ他の友達はバスで通学するが、その子は自転車で濡れて通学している。それは少しでも電車賃だけでも節約しようという考えから来るものであるらしい。私の学校では、収入格差によるいじめなどは発生していないが、文化祭などの行事で使うクラス衣装など、予算額にそれぞれ差があり、それも家の収入による差だと思う。結局、何に決まっても貧困層の子も富裕層の子もお互いが納得いく結果にはならない。どちらかが我慢をすることになるのだ。そして、富裕層の権力が強い傾向にある現状、納得いかないのはいつも貧困層の子である。これらを、解消するために今まで政府は奨学金制度などの支援制度を設けてきた。それでもなかなか解消されない。でも、金銭面をこれ以上支援するのは、日本にとって大きな負担になる。だから、生徒が皆貧困で困っている人もいるのだということを理解し、誰が困っているまではわからないが、そういった人もいるのだということをみんなが理解することで、協力し合えると考えた。貧困層を救うためのポスター作製や、学校での話などをすることも一つの政策であると思う。(女性/17 歳/高校生)

質問3 (将来を見据えて、自分が身につけたい・伸ばしたい能力についてお答えください。)2030年以降の社会は、今よりも海外とのやりとりが身近になり、人工知能やロボットに関する技術が発展するなど大きな変化が起こるとされています。そのような中で、あなたが将来を考えたとき、どのような力を身につけておきたいですか。また、そのためにはどのようなサポートがあったらよいと思いますか。

提出された主な意見

■AI や IT の知識や技術、応用力

- ・ロボットができない、経営などのハイレイヤーでの判断、そしてロボットなどをより高度にしていってプログラミングなどを学んでいきたい。(男性/24歳/正社員・正職員)
- ・IT系、コンピュータに関する知識がほしい。初心者でも気軽に学び、通えるような場がほしい。(女性/18歳/大学生・大学院生)
- ・人工知能やロボットについて、それらがどのような経緯をたどって発展してきていて、どういった人たちがどんな知識・技術を活用してそれらを作っているかについては知っておきたい。プログラミングに関することをもう少し多く学校教育で取り入れ、子供が人工知能やロボットに関心を持つチャンスを設けてあげるとよい。(男性/22歳/大学生・大学院生)
- ・コンピュータの知識や想像力を身につけたい。今までにないほどの技術の進歩が進むことが考えられるのであればもっと実現できるように想像力を膨らませたい。そして、主流となるパソコン・スマホを自由に楽しく扱えるように大人でも気軽に学べるサポートがあることが望ましい。そして、児童もより幼い頃から学べる環境を作ってほしい。(男性/27歳/正社員・正職員)

■感性や人間力、人間性

- ・人の心に寄り添える力。AI等は効率的に最短のルートで答えを導き出すが、それでは図れないところを身に付けたい。これを身に付けられなければ、社会で役立てないと思う。そのためには、所謂道徳の時間にケース・スタディを行う必要があると思う。ex. 障害者、いじめ、離婚など。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・機械化される世界も恐ろしいのでむしろ原点に戻って人間性や心を振り返るようなことをした方がいいと思う。人として感じるもの、感性は失ってはいけないと思う。(女性/20歳/専門学校・短大などの学生)
- ・ロボットにはできず、人間にしかできないことを大切にしたい。(女性/18歳/高校生)

■社会人学習、学びの継続

- ・働きながらも学ぶことが許される環境に身を置くことである。そのために、国や企業が時間や費用を援助してくれるサポートがあったら良いと思う。(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・将来どのような社会になるかはわからないため、先読みして特定のスキルに当て込むのも難しい。備える方法があるとすれば、変化に対応する心構えのようなものに過ぎないのでは。それこそ直近の10年・20年でも、技術革新によりニーズが大幅に下がった職種があるはず。例えば最近では金型加工など3Dプリンタに代替されようとしているし、さかのぼればはんだ付け技術などは機械

の精密な作業に取って代わられたと聞く。そこにいた職人たちがどう生き残りを図ったかなど、変化に対応する経験談を聞き、それを踏まえ危機感を持って職業生活を送ることが効果的ではないかと思う。(男性/29 歳/正社員・正職員)

- ・サポートも大切だが、どのような研究が行われていて、どこに行けばその研究に携われるのかというのを、早いうちから子供たちが知ることができるように環境を整えることが大切だと思う。職業体験やその職に就いている人を招いてのセミナーなど小学生のうちから触れられるように授業に組み込めたらいい。大成する研究者はたいてい小さいころからその研究をしようと決心し、その夢のために努力してきた人が多いように感じる。必要な知識は文章力と論理的思考や自分の考えをまとめて人前で話す能力が欠かせないと思う。インプットだけでなくアウトプットする練習が学生のうちからできればいい。(女性/27 歳/正社員・正職員)

■語学力

- ・英語。コミュニケーション能力。そのために外国語活動を小学校低学年から始める。(女性/23 歳/正社員・正職員)
- ・語学が必要だ。もっと学びたいが、難しい。日本でもっと安価に勉強できる場所を作ってほしい。(女性/19 歳/大学生・大学院生)
- ・私は英会話を身に付けていきたいと思う。昨今ではグローバル化が進行し、外国人とのコミュニケーションをとることが当たり前ようになってきているため、少しでも意思疎通をするために英会話の能力を身につけたいと思う。中学校・高校ではどちらかといえば読んだり、書いたりする能力が求められてきたが、実際にコミュニケーションをとる上ではやはり、聞いたり、話したりする能力も必要ではないかと感じている。大学では英会話の授業が開講されているので、勉強したいときにできるが、中学・高校ではあまり英会話の授業が多くない気がするので、もう少し英語の授業において、英会話に比率をおいてもよいのではないかと思う。ただ書いたり、読んだりすることも必要なため、今よりも英語の授業時間数を増やすことが必要な気がする。(男性/20 歳/大学生・大学院生)
- ・国際語となっている英語の習得はもちろんのこと、どのような社会となっても、自ら学んでいく主体性、学んでいく持続性は習得しておきたい。そのためには学べる場所の充実や、テキストの充実が必須だろう。(男性/22 歳/正社員・正職員)

■留学サポート、受入

- ・どのような場所でも自分の能力を発揮できるような、適応力を身に付けたい。そのためには学生のうちから様々な価値観に触れられる環境が必要なので、留学生の受け入れや留学支援などをしてほしい。(男性/21 歳/大学生・大学院生)
- ・海外とのやりとりが増えることに対しては、語学はもちろんの事、留学に対するサポートがあると嬉しい。若者は内向き志向というように言われていたが、私の同世代にはそのような事は感じなかった。ただみんな金銭面で留学を諦めてしまうことがあるようだった。「トビタテ！留学 JAPAN」のような取り組みがある事は素晴らしいと感じるが、しかしながらトビタテに対してハードルが高いと感じている方もいるのではないか。もちろん、強い意志をもって外へ出ていく事は必要であり、

重要な事だ。しかし、今よりももう少し気軽に留学へ行けたら嬉しい。例えば奨学金（給付型）の設置や、留学説明会の地方での開催、海外大学と日本の大学との提携の促進等を求める。（女性/23 歳/専業主婦（夫）、家事手伝い）

■コミュニケーション力、聞く力、自己アピール力

- ・パソコンなどを使いこなせるともっとよいと思うが、まず多くの人と話をするといいコミュニケーションを上手に取れることが大切だと思う。（女性/12 歳/中学生）
- ・どんな技術が発達するにしろ、根本には人間が存在する。人間のニーズに沿って技術を発達させ、効率よく社会に広めていくためには「きく（傾聴する）」スキルが必要と感じる。SNS やメールを使ったコミュニケーションが中心になっている今、直接のコミュニケーションの際に自分の PR ばかりになり相手の話を聞けなくなっているのではないかと危惧している。道徳や HR、総合学習の時間は以前から「なんの学習をすればいいのかわからない」という声も多かったと思う。就職後社会で役立つスキルの勉強、として「傾聴」を学べる時間にしてみてはどうだろうか。（女性/27 歳/正社員・正職員）
- ・海外と競争していくなかで一番大切なものは相手と議論や対話をし、問題解決していく能力だと考える。知識はインターネットを活用すればすぐに調べられる時代になったので、これからはその知識をどのように活用していくかということが重要になってくる。問題に直面したとき、テストのように一問一答であるものではなく、正解がない中でよりベターな答えをだしていく能力が必要である。（男性/24 歳/大学生・大学院生）
- ・人と関わる力。どの道にしても人との関わりは避けて通れないものであると思う。それは自分で動くことが第一に大事であるが幼い段階からそういう機会をどんな子にも与えることが一層大事であると思う。人と関わることは嬉しいも楽しいも面白いも悲しいも怒りもあるが関わりがあることで孤立を減らすことにつながるのではと思う。（女性/22 歳/大学生・大学院生）

■実践力、実務能力

- ・細分化した専門分野の知識よりも、それらのつながりを理解し、活用できる能力。知識や経験をどう関連付けるかという能力。（男性/26 歳/正社員・正職員）
- ・生活力。勉強だけでなく、家庭的な学び。（女性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・人工知能やロボットにはできない仕事を身につけ、将来どんな社会が訪れても活躍できる力を身に付けたい。（女性/25 歳/正社員・正職員）
- ・技術革新は指数関数的に起きるため、歴史から学ぶことはこれから意味をなさなくなると言われている。予想もできない未来に向かい私たちは何を学べばいいのか。私は問題発見解決能力だと思う。そのため学科のみによる授業ではなく、実際に問題を見つけ解決していく過程を体験できるような帰納的思考を養うような授業を望む。（男性/18 歳/高校生）
- ・やはり資格を身につけておくほうがよいと思う。特に、これから少子高齢化の波がさらに大きくなると思うので、介護関係や保育関係の資格を身につけたい。（女性/21 歳/大学生・大学院生）

■想像力、クリエイティブな能力

- ・「想像力」だと思う。機械にできない面を鍛えたいと思っている。例えば、AI や技術の発展により言語学習がいらなくなるといわれているが、言語によって思考が決まると言われているように、完全な翻訳は不可能だ。機械に出来ない面をきちんと想像でき、補え、発展させていける人材になりたい。そのためには、まず基礎的な知識が必要だと思う。基礎が無ければ応用が出来ないからだ。ただ、そもそも未来がどうなるのか、それを予想するのがとても難しい。子供のころからそれを踏まえた上でのキャリア設計はされなかった。(女性/21 歳/大学生・大学院生)
- ・創造力が必要な社会になると思う。そうした社会を生き抜くために、本質をとらえた広く深い教養が必須であるはず。大学でも専門知識をただ羅列するのではなく、社会に生きる形で教授してほしい。(男性/22 歳/大学生・大学院生)
- ・私はこれからの将来に向けて、人工知能ができない力を身につけたいと思う。それは、創造力だ。人工知能は何かを創造して物を作りだすことはできないと言われている。だから、創造力をより豊かにしていきたいと思う。(男性/21 歳/大学生・大学院生)

■広い視野と柔軟な思考、応用力

- ・全体を見て判断する客観的な視点や、適応力は人間がロボットに勝る力のうちのひとつだと思う。ロボットに全てを頼るのではなく、全体の様子を見て、ロボットに部分的に仕事をしてもらい、というのが理想だろう。また、ロボットが全く動かなくなる状況にも備え、人間のみでも生き残れる力を失ってはいけない。ロボットが色々な仕事をやってくれる時代になってもなお、人間の生きる知恵や力を失わないよう、林間学校やキャンプなどのイベントの機会を増やしてほしい。その経験の中で、人間らしさや人間ならではの知恵を発見し、生き延びる力を養うことができると思う。(女性/17 歳/高校生)
- ・情報リテラシー能力を上げるための教育をしてほしい。将来的に、AI などによって、個人は個人の好みのニュースしか見なくなる(掲載されなくなる)。この状況を防ぐために、政府は情報の取捨選択能力や、リテラシーを高める教育を若いうちから進めていくべきだと思う。新聞を比較したり、海外との報道の差を知ったり、いかに自分たちが触れる情報が、分析されて、自分好みの情報になっているか知るような授業をするべきだ。(男性/22 歳/大学生・大学院生)
- ・どんな時代でも、柔軟に対応することができる能力が必要だと思う。新しいものは積極的に体験し、自分の知識の一つとして活用していきたい。また、これらの取り組みを学校などでも積極的に取り組み、子供の頃から視野を広く物事を考え、考察できる能力を身につけることができれば良いと感じる。(女性/19 歳/大学生・大学院生)
- ・社会がどのように変化しても、適合できるように、自分で考えて行動できる力を身につけておきたい。そのためにはいろいろな経験から視野を広げるべきだと思う。(女性/25 歳/正社員・正職員)

■その他

- ・ひとつのことを集中してやりとげ、こつこつと続けられる継続力。とにかくつらくても途中で投げ出さなければどうにかなると思うので、継続してできる力がほしいと感じる。(女性/19 歳/大学生・大学院生)

平成 28 年度 第 2 回青少年意見募集事業結果

- ・人によって違うと思うけれど、それぞれの得意な分野で得意なことを伸ばせる環境にあればよいと思う。それぞれがちがうことで、数人が合わさったなら、プラス効果が大きいように思える。(男性/16 歳/高校生)
- ・投資。世界的不景気なので給料は上がらない。そうしたら、収入を増やす方法は株や為替による投資しかないが、教科書には株や為替の売買について全く書いてない。イギリスは産業が衰退しても投資で国を保っている。日本もいつまで産業を維持できるか分からないので、イギリスのように投資について得意になれるように、学校で教えるべきだ。日本だって江戸時代は、米の相場で大もうけしていた。日本には投資の歴史も伝統もあるのだ。(男性/16 歳/高校生)
- ・ロボットや人工知能による仕事の自動化が進み、現在ある仕事はかなりなくなってしまうと思う。そのため、新しい仕事を生み出す能力が問われるのではないかと考える。そのためには、小さい頃から好きな事に全力で熱中し、好きな事から派生した新しい遊びを考える機会があるといいのではないかと思う。(男性/25 歳/大学生・大学院生)
- ・自分の興味のある分野について、専門性をもって探究や分析を行える能力を身につけたい。自分の能力が実際どれほど伸びているのか、客観的に分かるようなことについてサポートがあったら良い。成長を見ることができれば更に伸ばすこと、あるいは逆に方向転換や修正をすることができると思う。(男性/29 歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)

質問4 誰もがそれぞれの能力を伸ばし、夢と希望を持って様々な分野で活躍できるようにするためには、教育を更に充実させていくことが必要です。そのために国が教育への支出を増やすことについて、若者を含めた国民に理解をもらうには、どのようにしたらよいと思いますか。

提出された主な意見

■教育現場への地域・民間の参画

- ・教育のイメージを、子供中心のイメージから生涯学習を含む全世代的なものへと変えていき、その中で、教育を地域システムの1つとして認識し、学校が地域の中で身近な場所であると共に、時には地域の交流を育む場所となることが重要ではないかと思う。そして、教育現場の教員も地域課題に取り組めるようにすることで、教員の子供への理解を促すと共に地域の信頼へと変わり、それが社会の信頼へ繋がるように思う。教員が忙しいという話はよく聞くところである。そのため、教員や教育現場の負担の要因を見直し、多様な価値に教育が気づけることが今の教育の在り方、価値を見直すという意味で重要ではないかと思った。（男性/21歳/大学生・大学院生）
- ・昔は地域で一体となって子供を育てるといった考え方があったが、今は西欧風の個人主義的な考え方の方が優勢で、大人が子供と関わる機会が減ってしまったのではないかと思う。たとえば、ある大学では経済学部の学生が主体となって、団体を立ち上げ、家が経済的に苦しい子供や、ホームレスのために食事を安く提供している。これはひとつの例だが、民間の力をもっと国（ひいては市役所など）とむすびつけられれば、国民が自分の問題として教育のことを考えられるようになるのではないか。（女性/19歳/大学生・大学院生）
- ・高齢者層に特に理解をしてもらいたいと思うので、高齢者が、若者向け教育に係るボランティア活動等に関われるような仕組み（補助金）等が有ればいいのではないかと思う。（女性/25歳/正社員・正職員）
- ・日ごろから“変化に合わせて柔軟に対応する”ことが国民意識として十分に根付いていないと進展スピードは良くなる。教育分野だけに特化するのではなく、全世代が各世代のことを一挙に話し合う機会を定期的実施する。高齢者は教育や就職、子育てなど若者が抱える問題かつ、現役世代との社会状況の変化、お金のこと、若者には高齢者の実情、介護問題、生産世代には若者に対して自分たちができること、など各世代が重要と考えることを互いに理解し、自分たちができること、してほしいこと（声かけで気遣う程度のできること）などを話し合う。そのうえで、教育への支出についても必要性を知ってもらう。他への支出が減るような場合は、お金での支援ではなく、互いにできることを増やしていく。全員が全員のために取り組むために、全員が全員のことを理解して思いやる精神を伸ばすことが大事。（男性/28歳/正社員・正職員）
- ・主体的に若者が教育を受けたいと思えるような教育も必要。さらに大人にも教育は社会基盤であることを認識してもらう。大人が教育現場と関わる接点をもっと増やし、若者と大人の双方の理解を促す。（女性/20歳/大学生・大学院生）
- ・部活の顧問を外部から雇うなど、教師の負担を減らせば、授業の質も良くなり若者たちも納得できるのではないか。（女性/23歳/大学生・大学院生）
- ・若者が活躍できる機会が多ければ、みんなに私たちが教育を受けることの大切さが理解できると思

う。私の学校ではボランティア活動が盛んで、そのうちのプロジェクトの一つは中高生にまちづくりに興味を持ってもらうことを目標としている。現在、自分が住んでいる地域とあまり親密ではないと感じている。普段家から電車で 30 分ほど離れた学校に通っていて、家の周りで 1 日を過ごすことはあまりない。しかも学校がある地域も、住んでいるわけではないので自分のまち、自分の地元と呼べるような場所だとは感じていない。けれども、高校生がまちづくりを考えられるような機会（ワークショップ、講演会、まちづくり体験イベントなど）がもっとあって、中高生が各地域で活躍できていれば、その地域の人たちは私たちが教育を受けることを大切だと感じてくれるかもしれない。中高生が地域の一部だと実感し、貢献し、地域に大事な存在だと認めてもらえれば、より多くの方が教育への支出を増やすことを理解してくれると思う。（女性/16 歳/高校生）

- ・学校などの教育の現場を普段知らない人々に、現場をより知ってもらう取り組みが必要だと思う。学校というのは、子供の教育の現場であり、地域と切り離せない施設である。子供の保護者であってもなかなか学校の活動を理解できていないことがあると思うので、今の教育の現場を知ってもらうのが大切だと思う。そして、子供のための教育だけでなく、大人の学びの場、高齢者の生きがいの場といった、複合的な機能を果たしていくことが、学校の持つ価値を高め、教育への支出を増やすことに理解を得られるのではないか。（男性/24 歳/正社員・正職員）
- ・次世代の私たちは、少子高齢化社会であるにもかかわらず将来を少数精鋭で担っていくのだ、だからこそ投資をしていただくのだ、という意識を持つために、社会の複雑な仕組みを 18 歳の選挙権、20 歳のお祝い、大学卒業後から考え始めるというのでは、投資していただく価値がないように思える。何になりたいか、スポーツ選手のような夢を明確に持てる人ばかりではないけれど、生き生きと活躍できる将来があることを、経済的なこと、学歴などに縛られることなく、幅広く実現可能な国であることを、教えてくれる先生以外の、様々な仕事に携わっている人と交流を持てることが望ましいと思う。そこには、講師となる方に報酬が発生してしまうので、国に基準を設けてもらえたらどんなに良いかと感じる。中学時代の生徒会では、著名人を呼び講演依頼をする学校の伝統に、ある著名人の名が挙がり、講演料を調べたが予算が破格だから希望がないと思っていた。だが、諦めきれず手紙を書き、講演料も学校の予算のみであることを伝え交渉の末、奇跡が起きた。その時の経験は今も覚えている。この時の講演によって将来への夢を強めた生徒もいる。（女性/15 歳/高校生）

■教育による成果の具体例を提示

- ・経済的格差と教育格差が、負のスパイラルを通して固定化されているということへの危機感を、喚起する必要があると思う。若者層に、教育を受けることの素晴らしさを知ってもらうべきである。言い換えれば、自分の知的好奇心を保ち、高め、満たすことの楽しさを知ってもらうべきだと思う。私の場合、読書や博物館見学や史跡見学、それに、専門的知識を持っている大人の人と話すのが好きで、それによって今でも知的好奇心を保つことが出来た。しかし、年が近い同僚の中には、基本無料でいつでもどこでも遊べるような、スマホゲームにしか興味がないという者もいて、彼の知的好奇心は、もはや、いかに楽しく『暇つぶし』をするか、ということにしか使われていないのだ、と感じることがある。（男性/26 歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員）
- ・若い人で成功している人をもっと取り上げてほしい。（女性/19 歳/大学生・大学院生）

- ・教育を受けられることが日本では当たり前になっていると思う。当たり前になっているから、これ以上支出をしてどうするの？と感じるかもしれない。教育を受ける場合と受けられなかった場合との比較を具体的に表してみることや、身近に感じられることから読み取れるようにしたら良いと思う。（女性/18 歳/高校生）
- ・様々なコンクール（例えば、合唱や合奏など）で頑張っている人を世の人にもっともっと紹介してほしい。そのような場で、頑張れるよう補助などがあればたくさんの人がまだまだ力を伸ばせると思う。（女性/12 歳/中学生）
- ・教育によって得られた実績やこれからどんなものが得られるのか、そしてそれには一体どれくらいお金が必要なのかを具体的に示すことが必要だと思う。納得のいく説明じゃないと国民は理解してくれないと思う。（女性/14 歳/中学生）
- ・教育への支出を増やすことが、個々人にとっても、直接的あるいは間接的にメリットがあることを伝える必要がある。多くの方は、国の将来のために教育への支出を増やすと訴えても、納得感を得られないのではないかなと思う。若者にとっては、若者自身の将来のために国が教育に投資をすると決定することについて、反対は多くないはずである。また、優れた教育の提供は、ひとつの社会基盤になる。高い水準の教育が、高度な産業の発達と経済発展を支えることができる。経済的な発展ばかりが豊かさではないが、年金や保険といった社会福祉制度を維持するために財務的な裏付けが必要なことは間違いない。高齢世代の老後のためにも、教育への投資が不可欠だと訴えるべきである。（男性/25 歳/正社員・正職員）

■教育制度の改善を優先

- ・教育は費用対効果がすぐに現れるような支出ではないので国民にすぐに理解してもらうのは不可能だと思う。しかし、学ぶ意欲のある人に適切に安価な教育を誰にでも提供できる体制を整えていけば、いずれ理解されると思う。（男性/29 歳/正社員・正職員）
- ・教育は必ずしも学力向上のためにあるのではない。コミュニケーションを図る場としての学校でいい。学費は国が負担する。誰もが学べる環境を作る。学びたいものはとことん学べるようになればいい。少なくとも外国語は小学生から学び始めないと外国とつながれない。教育の効果をお金で図るようには考えてほしくない。（女性/18 歳/大学生・大学院生）
- ・学費無料で色々チャレンジできる学校。（女性/23 歳/正社員・正職員）
- ・ただお金を使うのではなく、学校の数を増やす、学費を下げる、奨学金制度を充実させるなど、もっと目に見える形でお金を使えば理解が得られるのではないかな。特に、高校、大学の学費を下げるのが先決であろう。（女性/17 歳/高校生）
- ・リーダーシップトレーニングの導入。リーダーシップトレーニングを受ければ、自然と教育の大切さに気がつくと思う。教育の結実は、入試につながっているように、一般的に認識されている。しかし、教育の結実は、教養であり、ビジネススキルであり、生活力であり、人間としての価値や魅力に結実するというのもっと知ってもらいたい。そのためには、教育を社会一体となって行うべきだ。企業とやったり、地域とやったり、家族とやったり、役所とやったりしていくことがより必要だと思う。（男性/22 歳/大学生・大学院生）
- ・30 代～50 代などの世代に、教育は子供や若者だけのものではなく、税金を納めている当事者もそ

の教育政策の恩恵を自分自身が受け取れるような仕組みを作る必要がある。例えば、大学院の社会人コースの充実や趣味の音楽を大学で学ぶなど。（女性/20 歳/大学生・大学院生）

- ・大学生くらいではぴんとこないかもしれないが、就職活動や勤労を通じて社会と触れるなかで、多くの人は「こういう教育を受けられていれば」という思いを持つのではないかと思う。自分自身も、キャリア教育により力点が置かれている現代の教育を受けたかったと思うし、それを受けたいうで自分が歩みたい道を知りたかったと思う。その、後悔のような思いを上手に拾うことで、教育への投資に共感を得られるようになるのではないか。（男性/29 歳/正社員・正職員）
- ・義務教育の授業量を増やすことだと思う。勉強はいつでもできるけれど、学業だけに専念できる若いうちに学んでおくことがベストだと思うからである。義務教育のうちに沢山様々なことを学び、可能性を広げていく必要があると思う。（女性/26 歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員）
- ・学力だけでなく、日本人としてのマナーの向上、世界へ出て行った時に披露できる日本の文化を、学校で身に付ければ、国民は教育への支出を理解してくれると思う。（男性/16 歳/高校生）
- ・支出を増やす前に今の資金内で変化を生む必要があると思う。世界にはホームスクーリングや 4 学年合同授業などがある。今の日本の教育は硬すぎる。そして型にはまっている。もっと生徒に体験をさせ自分に興味のある一つのことだけでも推してあげることが必要であると思う。（女性/16 歳/高校生）
- ・小学生や中学生、また高校生や大学生は教育というものに縛られていると思う。この勉強をしたらいい大学に行ける、この勉強をしたら褒められる。学力は良くなると思うが、目的意識はなくなっていくと思う。また、勉強ができない子供や人と関わるのが苦手な人にとっては、学校というその人にとって唯一の社会での生き場がなくなってしまうと思う。すると、夢も希望も持たなくなってしまふ。学校の教育のみがすべてを決めるわけではない、自分が何をやりたいのか、どんなことに興味を持っているのかなどを大切にしたい学校運営であったり、社会づくりをしていくべきだと思う。（女性/19 歳/専門学校・短大などの学生）
- ・私は今高校 3 年生である。受験期に入りみんなあの時勉強していればよかったと口々に言う。これは大人からすれば自業自得かもしれない。でも実際に生徒になぜ勉強するのか考える時間を学校は与えているのだろうか。夢と希望について何が必要なのか真剣に考える機会を作っているのだろうか。ただ教育の支出を増やしてもそれが夢の創造につながるのか疑問である。私には夢があり、幸運にもそのために何が必要なのか真剣に考える時間を多くとることが出来た。このような過程を経るうちに自然と勉強もするようになった。手っ取り早く理解を得る方法なんてないと思う。まずは夢について真剣に考える機会と真摯に向き合う大人が必要なのだと思う。（男性/18 歳/高校生）
- ・学校教育の現場にもっと子供たちが参画する場を設けることが重要。子供たちは、教育を一方向的に受ける側ではなく、ともに学校を作っていく立場という認識を得ることが重要。そのなかで必ず、教育現場において資金に関することも話し合うことが必要になってくる。そのなかで、子供たちは学校教育の現状と財源ということを結びつけて考えることができる。（男性/24 歳/大学生・大学院生）
- ・人は期待されることで育つ、成長しようと思う面がある。だからこそ数少ない子供、若者に投資をすることは、社会みんなで子供、若者に思いを伝えることになる。人への投資は時間がかかる。だから若いうちから投資を始める意味がある。それにつまずきやすいのも、若いうち。だからこそ、

若いうちに失敗しても大丈夫という機会を、個々の家庭状況等に左右されずにいろんな選択肢から自分の関心にあったものを経験できる機会を保障することで、すべての子供、若者が持っている可能性が開花するキッカケを作ることが出来る。（男性/25 歳/正社員・正職員）

■現状および今後の支出内訳の開示

- ・国が教育への支出を増やすことを国民に理解してもらうために必要なのは、なぜ教育への支出が大切なのかを、説くことだと思う。私は、資源の少ない日本が今後発展していくためには、人間力をそれぞれの国民が高め、より良いアイデアを生み出し、それを形にしていくしかないと思う。そのうえで良い教育をみんなが受けられるようにすることが必要だと思う。また、支出を教育のどの部分にかけていくのかをもっと明確にすることが大事だと思う。特に柱となる方針については丁寧に説明をすることで、支出を増やすことで何がどう変わるのかを見えるようにすることが効果的だと思う。ただ単に支出を増やすと言われても、それで何の良いことがあるのか、どこが改善されるのかがわかりにくいと理解はなかなか得られないと思う。（女性/27 歳/正社員・正職員）
- ・具体的にどのようなものに活用するのかを明示する。充実していることを若者や国民が実感できるようにする。（女性/18 歳/大学生・大学院生）
- ・国の将来を担う若者を支援するために投資をするのは、国の繁栄や持続に欠かせないと思う。このことを国民に理解してもらうように広報するのはもちろん、教育への支出の透明性を高め情報公開をすべきだと思う。（女性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・使い道を細部まで公表することだと思う。お金を回収したのに使い道が曖昧で、後々不正に用いられたとわかったら信頼はなくなる。当時の責任者が不明確ならばなおさらである。文書で公表するだけではなく、多くの人に見てもらえるよう工夫し、公開すべきだと思う。（女性/20 歳/大学生・大学院生）
- ・若者と時代が求めるものにあった具体的なプランを提示し、それに必要な額を正確に伝えるようにする。（女性/16 歳/高校生）
- ・用途を明確にする。支出に見合う実績を発表する（恩恵を受けた人の声を皆に届けられると良いと思う）。理解していない人の意見を取り上げ、その意見のロジックに従って説明する。（女性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・現在の教育の現場の課題点をあげた上で、具体的に教育のどの点に力を注いでいくのか、支出金の内訳の公表などが必要だと思う。人が動くためにはメリットが必要である。教育の充実によってどのようなメリットが生まれるのかを伝えることが必要だと思う。（女性/18 歳/高校生）
- ・国への支出を増やすためには以下の過程が必要だと思う。第一に、現在国が教育にいくら支出しているのか、支出されたお金がどのように運用されているのか、分かりやすい説明をおこなうこと。第二に、国が教育への支出を増額したとして、どのような政策にいくら用いるのか明瞭な計画を発表すること。漠然とした不透明な説明ではなく、具体的に「〇〇政策・事業」に〇〇円利用、など具体的な説明が適切である。更に、新たな事業を行うことで、いかなる効果が期待できるのか、誰が恩恵を被るのか、などもしっかりと説明されるべきである。（女性/24 歳/大学生・大学院生）
- ・自分たち自身も学んでいく過程で国や自治体からの援助を受けているはずなので、それがいくらなのか具体的に明示し、次世代への出資に対して理解をしてもらう。（男性/22 歳/正社員・正職員）

■現状分析と今後のビジョンの明確な説明

- ・ トップ層を伸ばすのか、底上げを狙うのか、政府としての一貫した方針を説明してほしい。また、どれほど支出を増やし、どこの分野の支出が減ってしまうことになるのか全体像を見据えた説明がほしい。（男性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・ 本当に支出を増やす必要があるのか再検討し、必要ならその手段とそれによって得られる結果を透明性を高めて公表すればいいと思う。何か特別なことをする必要はないのでは。強いて言うなら有識者会議に大学の教授ばかり呼ぶのではなく、学生や今後伸ばしていきたい分野の専門家を呼んで、なるべく現場・現実からのかい離をなくすように試みることは大事だと思う。（女性/27 歳/正社員・正職員）
- ・ 国としてどの分野を伸ばし、その結果としてどのような成果を得たいのか具体的なビジョンを広範囲に展開していく。（男性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・ 国の方針として教育をどのように位置づけ、考えているのかを国民にわかりやすく説明する必要がある。「わかりやすく」というと、タレントを起用したりテレビ CM を流したりということもあるが、そうではなくて、現在の教育システムはどのような形で、何が問題で、将来どのようなことが予想される・期待されるから教育の充実が大切、といったようなロジックで説明してもらえるとわかりやすい。未来のことを予測しながら計画を立てるのは困難な一方、教育は未来への投資である側面が強いため、そのことを念頭に置きながら説明をしてくれると、わかりやすいのではないだろうか。このような説明を周知していくためには、まずは学校現場で、生徒自身に理解してもらう必要があるだろう。多くの場合、生徒自身は自分がどのようなカリキュラムに沿って、どのような教育体系で勉強をしているのかわかっていない（もちろん、わからずとも日々の勉強をこなしていけば学力がついていくのは好ましいことではある）。ただ、これから教育に関する支出を増やしていくという方針なのであれば、まずはその当事者たちにしっかり目的を理解してもらうことが大切だと思う。日々の学校内の授業や保護者参観の際などの折を見て、伝えていくことができるだろう。（男性/23 歳/大学生・大学院生）
- ・ 何かをするためには、結果が一体どうなるかの提示が必要だと思う。それをする事でどのような恩恵が与えられるか、具体的なビジョンを誰でも分かりやすく表現することが重要だと思う。その際には子供向けのホームページと大人向けのホームページを用意する必要がある。あまりにも難しい説明だと理解しようという意欲もそがれてしまうので、注力するのは子供向けのホームページだと思う。ネットにインタビュー動画を掲載するのも有効である。仮に支出を増やした場合、その事業の出発点、過程の記録は適切に管理して、公開することが最も重要かとも思う。（女性/28 歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員）
- ・ 教育が私たちの生活、未来にどのような影響を及ぼすかを国民が知ることができるように、統計データ等の情報公開をより進める。さらにそういったデータを SNS も活用しつつ公開することで、若者の目にも触れやすくする。また、文部科学省など、教育を充実させるために実際に働いている現場の見学ツアーなどの機会を増やすのも良いと思う。（女性/20 歳/大学生・大学院生）
- ・ そのことをすることによっての利点を発信すればいいと考える。また、方針をはじめにしっかり伝えることが重要であると考え。方針や利点を発表されないまま支出だけが増えた場合、透明性がないため不満などは出やすいと考える。しかし透明性がある程度あれば、国民、若者は理解してく

れると考える。このような世の中だからこそもっと充実した教育制度にしていってほしい。正直に誠実に対応していただければ国民は理解してくれると考える。理解してもらい教育を発達させてほしい。（男性/18 歳/高校生）

- ・教育は平等だと言っても現実には平等ではない。この教育格差をなくすために、収入による補助の丁寧な説明を大人だけではなく、子供にもわかりやすい説明をお願いしたい。（女性/14 歳/中学生）
- ・子供を持つ家庭へのメリット、負担は増えるがその恩恵を授かれる側のメリット、今後の国の展望・世界でのポジション、それをしないことへのデメリットを具体的に示す必要があると思う。若者に対しては多くいる中で自分も一人一役あり、単なる歯車ではないことを示す。（女性/29 歳/正社員・正職員）
- ・結果のない投資は誰もやらない。リターンが見えて初めて投資をする。教育を充実させ、何を実現するのが明確に見えれば理解も早く、わかりやすいと思う。（男性/29 歳/正社員・正職員）
- ・若者も一人の国民であること、その国民 1 人 1 人が充実した学びを受けられれば結果として社会全体がよくなっていくことを訴える。（男性/20 歳/大学生・大学院生）
- ・支出を増やすことで変わること（教育支出は、単なる支出ではなく国の発展のための一番の先行投資であること）、増やした予算でどのような改革をするのかを具体的に提示しながら国民に説明することである。また、誰もがひとしく教育を受けることは、憲法で保障された権利であり、それを実現するためには、国の力（お金や政策の面での）が必要不可欠です。全予算に対する教育支出比率があまり高くない現状では、教育を受ける環境に個人差がありすぎて「ひとしく」という部分に疑問を感じる。教育は受けたい人が個人で投資をすれば良い、という考えの人も多いと思うので「ひとしく」というところが重要である。さらに、教育支出を増大させる際に、対象を学校教育の限りではなく、今よりも幅を広げ、受益者を増やしながらか政策を考えるとより多くの国民の理解を得やすいと思う。（女性/29 歳/正社員・正職員）
- ・具体的にどのような対策で、教育を充実していくかを国民に示すことが重要になってくる。皆にわかりやすく伝えることで、今後を担う若者への教育の充実について理解してもらえると考える。（女性/19 歳/大学生・大学院生）
- ・教育現場を含んだ社会の現状を国が理解すべきである。子供だけを見るのではなく、大人を見ることで様々な原因がわかると思う。例とすれば大人の貧困。これに振り回されているのは子供である。逆に子供の諸問題の裏に家庭の問題が隠れているのである。そういった背景まで支援できるような内容であればいい。もっともいいのは子供、そして子供を持つ家庭の声に耳を傾けるべきである。（女性/22 歳/大学生・大学院生）

■長期的視野での重要性の説明

- ・漠然とした事を示すのではなく、教育によってもたらされる可能性を逐一提示すべき。ただ、逐一あげても膨大な量になり誰も耳を貸さなくなるため、シリーズ化して、半年ごとに押し出すキャンペーン目標を変えていくなど長期的に少しずつ訴えるしかない。（女性/26 歳/大学生・大学院生）
- ・教育は日本の未来に対する投資であるということ。若者が頑張り、日本がよりよくなると、回り回って高齢者を含めた社会全体にとってメリットがある。医療や介護などへの投資よりはよっぽど価値がある。（女性/25 歳/正社員・正職員）

平成 28 年度 第 2 回青少年意見募集事業結果

- ・教育成果をだすのは時間がかかるので、きちんと実施後の経過と結果を報告するべき。(女性/29 歳/正社員・正職員)
- ・すぐに結果が出るものではないことだが、長い目で見ると、非常に大事だと言うことを知ってもらおう。(女性/21 歳/大学生・大学院生)
- ・教育にかけるお金は消費ではなく、投資である。未来の納税者や貧困からの脱却など、長い目で見ればプラスになることは間違いない。そのデータや法則といった根拠は海外のものを含めたら、たくさんあるはずだ。それを説明していくべき。また、今の日本は教育にかける予算が少なすぎる。最後に、やはり主権者教育が必要ではないか、若者自身が投票に行かないと政治は変わらない。(男性/18 歳/専門学校・短大などの学生)
- ・教育の価値を上げるために教育の必要性、歴史を明確にするべきだと思う。そして、教育は教える側と学び取る側の両者が意欲的である必要があると思う。座学だけが学びではなく、自ら学び取ることが真の教育だと思う。(女性/18 歳/大学生・大学院生)
- ・未来の日本を担うのは、今の若い人たちなのだというのを強く訴えかけること。歴史的事実も取り入れながら、人に投資することこそが、国を発展・向上させていくことに一番効果的であるということ、伝えていくこと。このまま時代が移り変わって行った時、日本が危機的な状況になるということを論理的に訴えかけること。国の危機を回避するためには、人間の教育に投資することが有力であることを伝えていくこと。(男性/28 歳/正社員・正職員)
- ・将来を担う人たちの未来投資として国民へ理解してもらうことが大切である。近い将来に中核を担うこととなればより速い段階で専門知識に触れることが望ましい。そして、社会の一員として働いていくための支援としての「教育支出」と理解してもらえるように様々なメディアを通して広告する必要がある。(男性/27 歳/正社員・正職員)
- ・少子高齢化に対して、危機感がないのではないかと思う。教育費は自己責任で、という態度が感じられ、若者がどれだけ教育を受ける上で大変な金銭的問題を抱えているのか、本当の部分が知られていないと思う。次世代を育てていく事が国家の発展に繋がる事をもっとアピールすべきであると思う。学ぶ事で生活が削られていく事がなくなるように願っている。(女性/23 歳/専業主婦(夫)、家事手伝い)
- ・国が教育を更に充実させていくため教育費を増額することは、将来の国に対する投資だと考える。これからの国を担うのは若い世代である。国が教育に対する支出を抑えていると、よい人材が育たず将来国を担うことが難しくなってくる。このようなことを国民全体は理解する必要があると思う。(男性/21 歳/大学生・大学院生)
- ・教育への支出による利点を明確に示すこと。どのような利益が生まれるのか、今すぐにはなく、数年後、数十年後に現れてくることをきちんと伝えていく必要があるだろう。北欧などの他の教育先進国の例を具体的に例示し、現実的なプランや方向性を示していくべきである。また、その支出する財源を、今まで他の項目で支出されていた無駄な部分から削減していく方向で算出してほしい。(男性/24 歳/正社員・正職員)
- ・教育を充実させていくことで、どのようなことが期待できるのかを訴えていく必要があると思う。しかし、教育への支出による成果は、出るのが遅いし、はっきりとはわからないのでなかなか難しいと思う。教育をどのように変えていくべきか、また、どのようなところに力を入れて行っていく

べきかなどを、まずは、専門家を含めて様々な立場の意見を踏まえて話し合っていくべきだと思う。そして、長期的な目標をはっきりさせて、そこまで、どのような道でどのようなことを行っていくのかを説明すればいいと思う。（男性/15 歳/中学生）

■公費全体での配分の見直し

- ・国民は税金を散々出しており、若者の生活も苦しく子供を作ることすら出来ない家庭も大変多い。そこからまた子供のためと言い、税金を取るのとは本末転倒である。日本の 99%が中小企業なのに対し、なぜか公務員の給与は日本の 1%の大手企業を基準にしており、さらに退職金まで出る。あまりにも庶民生活とかけ離れた優遇性を持っている。（女性/27 歳/専業主婦（夫）、家事手伝い）
- ・国民から集められた税金が教育を含めた、あらゆる分野にきちんと正しく無駄なく使われるようにすべきだと思う。昨今のニュースを見ていると、税金の無駄遣いや、政治家の公費の不正使用のニュースをよく拝見する。税金が正しく使われないかもしれないという不信感を持っている国民は、国が教育への支出を増やすことについて、理解しないだろう。国民の理解を集めるためにはまずは税金が正しく無駄なく使われるようにすることが大切だと思う。（女性/22 歳/大学生・大学院生）
- ・わかっているけど、削りたいのが、大学への研究費だと思う。国費を無駄な経費に使わないで、若者の研究に投資してほしい。（女性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・お金を無駄に使っていると思われるようなことをしなければ、みんな納得できると思う。私が無駄に思えるのは、学校で配られ全然使わないまま、ずっと保管しておくだけの冊子だ。そういうものが配布される度、もっと違うことにお金を使えばよいのにとクラスメイトみんなで話す。配られてもしっかり読む人は限られているので、もし本当に必要な内容なら学校に言って、時間を使って全員で学ばせればいいと思う。この間配られた、オリンピック関連の冊子が特にその典型だと思った。オリンピックの歴史や日本の文化を英語で紹介するような内容のもので面白いとは思ったが、学校でポスター掲示したり、日本の文化についての英文を授業で扱えばすむのではと思った。しかも英語はすごく簡単で、DVD つきの冊子だったので、それを大勢の人に配ったことにより使われたお金について考えさせられた。すごく具体的なことになってしまったが、このように複数の人が疑問に思うようなことをなくして、お金を有効活用した上で支出を増やすなら納得する人も増えると思う。（女性/16 歳/高校生）
- ・学校の費用が高いと聞く。でも若者の能力を高めるために必要だと思う。高齢者施策も大事だが未来ある子供にお金を使ってほしい。（女性/15 歳/中学生）
- ・経済的理由での学習機会の喪失については、給付型奨学金を拡充させることが必要になる。予算の獲得は困難が予想されるが、例えば国費^{しょうへい}招聘留学生への給付型奨学金の一部を日本で経済的理由で学習機会を失っている人に補填するなど、ある程度不利益の分配の議論をする必要も出てくるのではないだろうか。（男性/21 歳/大学生・大学院生）

■効果的な広報・メディアの活用

- ・国の政策が国民のニーズに沿った内容であるかどうかを情報発信する取り組みが必要だと考えられる。そのためには、現在、国民はなぜ理解できないかの調査を行い、こうした原因に応じた情報

発信方法の検討から始めることが理解につながるものとする。なぜなら、国民の政策への理解につながらない原因として、仕事や生活が忙しい時間帯に説明しても、忙しさの理由が生活と直結するためそれを聞くところではない事が推測できるためである。単なる情報発信にとどまらず、政策内容が国民（若者）のニーズに適合し、地域性に応じていつどのタイミングでの情報発信ならば国民の理解を得られるのかについての調査と手段的検討を要すると予想される。（男性/20 歳/大学生・大学院生）

- ・テレビでの宣伝、駅でのポスター、駅前でのティッシュ配りなどをする。（男性/14 歳/中学生）
- ・教育がどれだけメリットがあるかを広報する。（女性/24 歳/大学生・大学院生）
- ・冊子のようなものをつくり、中高生に配布する。実際に、教育活動を行って、その価値を理解してもらう。ポスターや SNS を用いる。（男性/14 歳/中学生）
- ・教育への投資が個人の将来や国の利益にどうつながるかを、わかりやすく「見せる」ことだと思う。ただし、大きく成功した人にフォーカスするのではなく、なるべく小さな幸せを教育に関連付けて広報する。また、世代ごとに教育に対するイメージや教育がどのように役立つかという理解はちがうため、年代ごとに説明方法を変えるべきだと思う。（男性/26 歳/正社員・正職員）
- ・社会を支えていくのは私たち若者世代なので、教育の充実がますます大切なことは間違いないと思う。国の将来に対する投資である。やはり、マスコミの持つ力が大きいと思うので、マスコミでもっと取り上げるべきだと思う。（女性/20 歳/専門学校・短大などの学生）
- ・若者が選挙に行かないので、若者のための政策をしてくれる政府のことを知ってもらえるよう、テレビのコマーシャルや学校で配布するプリント、ポスターやスマホを使用してお知らせ（LINE ニュースやツイッター）など若者が良く目にする機会が多いメディアなどを使って広めることが有効であると思う。（女性/17 歳/高校生）
- ・今の時代は、参政権を持っている大人や高齢者向けに社会が作られすぎており、若者はどうせ声をあげても駄目だろうという気持ちからさらに参政していかない風潮にあると感じる。はっきりと若者が中心になっていくという制度を確立し、発言力を持った人間がしっかりとその意を示す必要があると思う。国会の中でいくら声を大にしようと、それはあまり多くの人間には届かない。テレビという非常に浸透して発達したメディア媒体があるのだから、そこで一つの時間を作り、これからの日本はどうあるべきかを述べる必要があると感じる。（男性/20 歳/大学生・大学院生）
- ・教育をより厚くサポートすることで子供のいない家庭、子供がすでに自立した家庭にどのようなメリットがあるのかなど、全ての国民にメリットがなければ理解してもらうことは難しいと思う。私は今後の社会を担う若者にきちんとした教育を受けさせることで、他国などと競合していける豊かな社会を築けると思う。そういったことを影響力の大きいマスコミなどを通じて発信していくことが必要だと思う。（女性/25 歳/正社員・正職員）
- ・現に奨学金が膨大で借金が膨らむ人が増えている。そういう意味において奨学金を貸与ではなく給付にすることが必要ということテレビでも特集をするべきである。（女性/17 歳/高校生）
- ・一つ一つの取り組みをもっと若者向けにどんどん発信するべきだと思う。SNS やツイッターなどでサイトを作り、教育関係のニュースをもっと広めるとよいと思う。（女性/21 歳/大学生・大学院生）
- ・教育への支出を増やすことによる利点と、資金の出所とそれによる他への影響も一緒に提示して

ほしい。また、支出の分野別割合などを明確にし、どの教育機関においても、誰もがそれぞれの能力を伸ばし、夢と希望を持って活躍できるという最初の目標を達成できるような資金の使い方を示してほしい。若者向けにはホームページの作成や、SNS などのインターネットを使った情報発信を、年配の方向けには新聞やテレビ、ラジオなどのメディアを活用した情報公開をすればいいと思う。その際にアンケートの実施などで市民の意見を聞き、教育の観点で一番資金を使うべき所を決定すれば理解が深まると思う。（女性/18 歳/高校生）

- ・教育といっても幅広く、職業訓練的な教育は理解を得やすく、基礎研究的な教育は理解を得にくいと思う。さらに結果が出るまでの期間が短いものほど理解が得やすいと思う。広報活動をするともに、別のところから経費を削り、教育に充てる必要がある。（男性/26 歳/正社員・正職員）
- ・多くの若者が政府に対して、高齢者ばかりにお金を支給しているイメージを抱いていると思う。SNS で政府のマスコットなどの公式アカウントを作り、そこで政府が伝えたいことを発信すれば多くの国民にそのことを理解してもらえと思う。最近の若者が好きそうな意外性に富んでいるものが良いと思う。（男性/17 歳/高校生）
- ・若者への理解に関しては、学校教育内での宣伝行為が優先されるべきである。誰でも夢に向かって努力する権利があり、国や地方自治体は、みんなが夢に向かって努力できる環境があるということアピールし、支援の内容、支援の効果を具体的に広めていくことで、より若者が夢を持って努力できると思う。そして、支援を受けたおかげで夢がかなった人などの物語を宣伝に組み込むことで、同じような夢を持った若者が、私もこんな風になりたいといったような夢を抱き、その努力ができる環境があることを理解できるはず。（男性/14 歳/中学生）
- ・IT 教育や英会話の授業を小学校・中学校・高校で拡充するために予算を増やすということであれば国民の理解が得やすいのではないかと思う。IT 教育のための設備投資や英会話の授業のための講師の人件費などに関しては、これからの未来を担う若者に力を育てていくために、必要なものだから教育への支出を増やすというように、説明をすれば多くが理解するのではないかと感じる。IT 教育によって、IT に関心をもつ若者をできるだけ多く養成し、世界企業で働く若者に必要な英会話を身に付けさせることは、これから日本が競争に打ち勝つために必要である。というようにどのような理由があり、教育への支出の拡充を行うのかということメディアを通して発信すれば、理解を得られるのではないかと思う。（男性/20 歳/大学生・大学院生）

■他国との比較を明示

- ・他の国と比べて、日本は教育にかける予算が格段に少ないことを公表し、新聞やニュースに取り上げてもらうことが有効だと思う。将来のために、高齢者にかかる税金を減らし、若者に向けていくべきだという世論が形成できれば良いと思う。（男性/24 歳/大学生・大学院生）
- ・海外では奨学金は返さなくて良いものであり、学生ローンを組んでいるのは全世界でもそう多くない。まして先進国と呼ばれている国での学生ローンは我が国だけで、少子高齢化の一途をたどる日本において、数少ない子供を金銭的な面で苦しめるというのは余りにも酷いのではないかと思う。（女性/19 歳/大学生・大学院生）
- ・他の国の教育の実践成果や結果を示して、効果があると示し、日本で適用できるよう工夫して実施するのがいいと思う。（男性/26 歳/正社員・正職員）

- ・若者に対しては、教育への支出が増えることによる若者に対するメリットをストレートに広報すればよいと思う。若者も含めた国民全体に対しては、「もし教育に十分な支出が回らないと国はどうなるか」というシミュレーションみたいなものを作成し、周知させる。もし歴史上そういった国や、逆に教育を手厚くしたことによって発展した国があるならその実例を出しても良いと思う。(男性/22 歳/大学生・大学院生)
- ・お金の問題で教育を受けられない人は大勢いる。その人々がどれくらいいるのか、それらの人々が学校に通えるようになるにはどれくらいのお金が必要か具体的に示す必要がある。また、他国との比較を行い、日本よりヨーロッパなどの方がもっとお金をかけている現状を知ってもらうことも大切だと思う。(男性/20 歳/大学生・大学院生)
- ・現在の教育が充実していない現状を、他国との比較でしっかり表すべき。新聞の一面右下、などに比較グラフが載っていることも多いが、メディアでの取り上げ方も限定的なので、しっかり議論を深められるよう各種メディアも駆使し、教育に対する危機感をあおる。弱点をクリアにし、重点的に取り組む姿勢を PR する。少子化の世の中で、今と同じかそれ以上に国を発展させていくためには、より効率的に優秀な人材を育成しなければこの国は衰退していくだけだ。ということをも国民もはっきり直視し、伝えていくべき。(女性/27 歳/正社員・正職員)
- ・現状把握として、他の先進国と比して教育への対 GDP 公的支出割合が少ないことなど、具体的な数値を示してほしい。また、教育への支出は消費ではなく未来への投資であるという観点から、支出増が個人の利益とともに将来の国益になることが分かれば理解を得やすいと思う。(男性/29 歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)

■理解される・されている

- ・方向性が間違っていなければ、教育に力をいれることに対して理解が得られるはず。しかし、支出を増やす際に理解をしてもらわねばならないのは、若者ではなく、教育にお金をとられてしまう部門の利害関係者ではないか。「教育に力をいれる」ということは感情的にも全員が正しいと納得する数少ない分野だと思っている。そこで反対する人は少ないとは思いますが、さらに教育経済学など、エビデンスベースの数値を出し、効果があることを立証させ、論理的に説得させることではないだろうか。(女性/21 歳/大学生・大学院生)
- ・誰も反対しないと思うので、やることを明確に表明し国民に伝えれば良いと思う。(女性/26 歳/正社員・正職員)
- ・「教育への支出を増やすことを、国民に理解してもらう。」という質問の意味がよく分からない。そもそも教育へお金を出すことに、反対している国民がいるとは思えない。教育が日本の社会の役に立てば、教育への支出に日本の国民の理解は得られると思う。(女性/15 歳/中学生)
- ・ヨーロッパでは、国が教育に力を入れていると聞く。子供たちの可能性に国が支出を増やすことは、国の未来に可能性を与えることだと思うので、理解してくれる国民は多いと思う。(女性/22 歳/大学生・大学院生)
- ・国が教育(福祉や社会保障も)に対し支出を増やすことは当然である。教育への支出を増やすという決定自体は批判されることはないと思う。(女性/19 歳/大学生・大学院生)

■その他

- ・聞いたことがある大学や教育機関だけに多額で魅力的な研究があるのではなくて、地元産業や伝統工芸などにも同じように能力を伸ばす場所があるべきだと考える。それぞれの能力・学業だけでなく、技術の鍛錬にも制度の活用方法を発表して、知る場所を増やせば良いと思う。受け取る側の責任や能力向上にハードルを設定して、目標を達することを前提に資金の提供や施設の充実を図るべきだと思う。（女性/16 歳/高校生）
- ・「誰もが夢と希望を持てる」ことはありえない。こつこつ努力し、やっと得た小さな結果で自信をつける、そんな努力と自信の積み重ねによって夢と希望が生まれる。それは教育の力によるのではなく、本人の努力による。学校教育によって良い大学とか、会社を起業するという夢と希望を持たせることは無理がある。支出を増やすことは、賢明な施策ではない。（男性/15 歳/高校生）
- ・今は、教育を受けたからといって、活躍できる場所が得られるとは限らない。正社員で働けるか心配である。能力とかその前に、安定した職業に就けて、収入を得られる世の中にしてほしい。（女性/15 歳/中学生）
- ・子供や高齢者への支援はよく叫ばれているが、若者が活躍できるような社会にするための支援が叫ばれることは少ないと感じる。働いていない若者が就労につながれば、その分税収は増える。若者が活躍できる社会になれば、どんな良いことがあるのかを、明らかにする必要があると思う。あわせて、若者は政治にもっと関心をもつ必要がある。政治を自分事にするために、大学生や中高生が選挙活動の手伝いができるような仕組みはおもしろいと思う。立候補者の演説を聞き続けることで、ほかの立候補者との違いがわかるようになったり、自分にとってどんな政策がいいのかを考えるきっかけになる。選挙に行く前に、実際に活動をしてみるようになると、より当事者性をもって社会を見ることができるようになると思う。（男性/29 歳/正社員・正職員）